

テーマ：多様なニーズと保育

社会状況の急速で大きな変化に伴い子どもや子育てをめぐる環境も変化し、保育においては、これまで以上に多様なニーズに応じることが求められている。

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、「障害のある幼児」「海外から帰国した幼児や生活に必要な日本語の習得に困難のある幼児」「アレルギー疾患を有する子ども」に対する配慮や支援について述べられているとともに、家庭及び保護者に関しても「外国籍家庭」「保護者に育児不安等が見られる場合」「保護者に不適切な養育等が疑われる場合」などに個別の支援を行うことが述べられている。したがって、従来、幼稚園・保育所・認定こども園等では、子どもや保護者の多様なニーズに応じた実践が行われてきており、「コロナ禍」も含む近年の保育現場ではさらに個別のニーズに応じる事態が生じていることも推測される。「インクルーシブ」の観点に立てば、多様なニーズに応じる保育の充実は、ニーズの有無や種類を問わず、一人一人の子どもを尊重し育む保育の充実に繋がると言える。

子どもや保護者の多様なニーズのうち、障害や発達上の課題がある子どもに対しては各園において一人一人の子どもに応じた発達の支援が行われている。特別支援に関する保育者の研修ニーズは高く、保育現場における障害や発達上の課題がある子どもに対する専門性の向上は、常に保育の課題であると言える。

また、児童虐待の増加や相対的貧困率の上昇等により、厳しい家庭環境のもとで育ち、その影響によって発達上のリスクを抱える子どもも増えている。このため、子どものトラウマに関する専門的知識を踏まえた対応や、保護者も含め多職種と連携した包括的支援の必要性が高まっている。

さらに、現在では、幼稚園・保育所・認定こども園等の多くに海外にルーツを持つ子どもが在籍し、日本語を母語としない子どもと保護者への対応が必要とされている。また海外にルーツを持つ子どもの保育では、文化や習慣の違い等の多様性を尊重する姿勢が求められており、保育内容や園行事等の検討も必要となると考えられる。

この他にも、医療的ケア児、健康上の問題を抱える保護者等、さらに多様なニーズがあると考えられる。「ニーズ」は、その種類や程度が個別具体的でそれぞれに異なるものであり、複数のニーズが重複するケースも少なくないと考えられる。したがって、多様なニーズに応じるためには、保育者の専門性の高度化や多職種連携等も重要な課題となる。

以上から、多様なニーズに関する保育現場の実態や課題、保育者の専門性等について学術的知見の蓄積と議論の発展を促したいと考え、第62巻の特集を「多様なニーズと保育」とした。広く積極的に意欲的な投稿を期待したい。

(文責 砂上史子)